

## 学校評価総括

「4」もしくは「3」を高評価、「2」もしくは「1」を低評価として表記している

### I 教職員による学校評価（自己評価）

#### (1) 数値による評価

##### ア 取組が充実している項目

##### (ア) 学校全体かつ各部の高評価（「4」「3」）の割合が95%以上の項目

- ・ 項目⑦「児童生徒の人権を尊重した言動の徹底及び自他を大切にし関わり合いの豊かな児童生徒を育成する学級経営の充実がされているか。」
- ・ 項目⑧「児童生徒の自発的・主体的な成長を支える発達支持的生徒指導の充実とチーム支援による組織的対応の推進がされているか。」
- ・ 項目⑪「児童生徒や保護者の思いを受け止めるミーティングや支援会議等の実施及び日常的な情報交換の充実がされているか。」
- ・ 項目⑫「各専門家との連携による専門性の向上及び指導・支援の充実がされているか。」
- ・ 項目⑬「共生社会の形成に向けた交流及び共同学習の積極的な推進がされているか。」
- ・ 項目⑭「巡回相談や教育相談等の充実によるセンター的機能の強化がされているか。」
- ・ 項目⑮「不適切な指導等の禁止，交通法規の遵守，個人情報等の厳正な管理などの服務規律の厳正確保がされているか。」
- ・ 項目⑱「児童生徒理解や授業力向上を目指した研修の充実による専門性向上がなされているか。」

##### (イ) 学校全体で「4」の割合が30%以上かつ低評価の割合が5%未満の項目

- ・ 項目⑥「インシデントレポートによる再発防止策の共有・蓄積及び危機管理マニュアル等に基づく具体的な対応の習熟がされているか。」
- ・ 項目⑨「児童生徒の実態に応じた健康・体力づくりの計画的，継続的な取組の推進がされているか。」
- ・ 項目⑪「児童生徒や保護者の思いを受け止めるミーティングや支援会議等の実施及び日常的な情報交換の充実がされているか。」
- ・ 項目⑫「各専門家との連携による専門性の向上及び指導・支援の充実がされているか。」
- ・ 項目⑭「巡回相談や教育相談等の充実によるセンター的機能の強化がされているか。」
- ・ 項目⑮「不適切な指導等の禁止，交通法規の遵守，個人情報等の厳正な管理などの服務規律の厳正確保がされているか。」

イ 評価が大きく上昇した項目 学校全体の高評価（「4」「3」）の割合が5%以上、上昇した項目（10%以上上昇した項目はなかった）

- ・ 項目⑰「一行事一改善やファイル・電子データの整理・利活用，クリーンデスクによる業務の適正化・効率化・意識化に基づく教材研究の時間確保がされているか。」（6年度12月88%⇒7年度7月88%⇒7年度12月95%）

ウ 課題として考えられる項目

（ア）学校全体の高評価（「4」「3」）の割合が85%以下の項目

- ・ 該当なし  
（参考：6年度7月 項目⑰ 81%，12月 該当なし）

（イ）学校全体で「4」の割合が15%以下の項目

- ・ 該当なし  
（参考：項目④「育成を目指す資質・能力を踏まえたICTの意図的・効果的な活用の推進がされているか。」（7月9%⇒12月18%），項目⑰「一行事一改善やファイル・電子データの整理・利活用，クリーンデスクによる業務の適正化・効率化・意識化に基づく教材研究の時間確保がされているか。」（7月14%⇒18%））

（ウ）学校全体で低評価（「2」「1」）の割合が10%以上の項目

- ・ 項目③「自立活動の時間における指導の推進がされているか。」  
（参考：7月10%⇒12月13%）  
（参考：項目⑰7月11%⇒12月5%）

エ 事務職員への質問項目

事務職員への質問項目は、「⑥・⑮・⑯・⑰」の4点としている。

オ 「N：（回答困難）」

項目⑤「小学部・中学部・高等部の各段階におけるキャリア教育の充実がされているか。」（参考：7月回答数4⇒12月回答数0）

（2）記述による評価との関連

「教育目標の達成や円滑な学校業務の推進には，学校全体としてどのような取組が必要だと思いますか。」という質問に対して，自由に記述をいただいた。

7月同様，項目⑯「コミュニケーションの活性化による相互扶助的な関係作り，協働体制の構築」と，項目⑰「業務改善」に関連する意見が多く寄せられた。

項目⑯については，前述Ⅰ（1）アの数値による評価での「取組が充実している項目」として，一部の学部で基準値に達していないことが理由で該当していないが，下記の表のとおり，いずれの年度においても，7月・12月ともに学校全体では高評価の割合は95%を大きく上回り，非常に高い水準で安定して推移していることが分かる。

**【協働体制に関する項目⑯：年度ごとの学校全体の高評価「4」か「3」の推移】**

R 5		R 6		R 7	
7月	12月	7月	12月	7月	12月
98%	96%	98%	98%	97%	97%
 2% ↓		 0% →		 0% →	

また、項目⑰については、前述Ⅰ（Ⅰ）アの数値による評価での、「取組が充実している項目」として、一部の学部で基準値を下回っていることが理由で該当していない。

しかし、下記の表のとおり、毎年度、7月から12月にかけて増加し、年度を追うごとに全体の水準も高まり、改善の定着と成果の広がりが伺える。特に、今年度は、7月から12月にかけて7%上昇し、過去最高の95%に達するなど、業務改善の取組が着実に成果として表れていることが伺える。

**【業務改善に関する項目⑰：年度ごとの学校全体の高評価「4」か「3」の推移】**

R 4		R 5		R 6		R 7	
7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月
76%	82%	82%	90%	81%	88%	88%	95%
 6% ↑		 8% ↑		 7% ↑		 7% ↑	

(3) 考察

ア 学校としての各項目の取組

全18項目中、項目③「自立活動の時間における指導の推進」を除く17の項目で、高評価の割合が90%以上となり、今年度学校全体として各項目の取組が充実していると考えられる。

イ (1)(2)の結果から今年度の課題と考えられる項目

項目③「自立活動の時間における指導の推進」においては、各学部、学校全体ともに低評価の割合が10%以上あり、職員が課題と捉えていることが伺える。しかし、最高評価「4」の割合が極端に低い訳ではなく、十分な取組がされていると捉えている職員も多くいることが伺える。目標設定や指導内容の設定の仕方や、自立活動専任からの説明や資料、授業実践の動画の紹介など情報提供も適宜行われている。職員一人一人が、説明や資料に目を向けることが大切であるとする。

これまでマンツーマンで取り組むことが主であった自立活動であるが、学級での時間における指導においては、複数の児童生徒に限られた職員でどう対応するか試行錯誤しながら取り組んでいるという点が、数字に反映されている要因と考えられる。

ウ 第1回教職員による学校評価（7月実施）で課題と考えられていた項目

(ア) 項目⑰「一行事一改善やファイル・電子データの整理・利活用，クリーンデスクによる業務の適正化・効率化・意識化に基づく教材研究の時間確保がされているか。」について

7月に最高評価「4」の割合が15%以下，かつ低評価「1」「2」の割合が10%以上で課題とされていた「業務改善」については，最高評価の4の割合が学校全体，また各学部ともに他の項目と比べると低い方ではあるが，「3」・「4」の好評価の割合は前回から7%上昇し，95%となっている。また，「4」の割合も4%上昇し18%となっている。

職員へのタブレットの配備というハード面の整備，またグループウェアやGoogle クラブルーム等の活用によるデータ配布による「ペーパーレス化」や「印刷業務の軽減」，Google フォームを活用したアンケートによる集計作業の効率化などのソフト面の活用等が進んだことがあげられる。

また，来年度に向けた校時表の工夫や見直し，職員の意見を反映させた放課後の時間（教材研究の時間を確保）のもち方への取組，一行事一改善への継続的な取組など，業務改善が進んでいることを実感できていることが考えられる。

まだまだ放課後の時間が足りないとする意見もあるが，前年度作成した教材や教具，データの整理，活用などにより，新たな資料作成への負担を減らすことや，全学級共通して使用するものを統一するなど，職員同士でコミュニケーションを取りながら共同，分担して業務を進めていくことも現在取り組まれている。これらがさらに整理されて行くことでさらに時間にゆとりが生まれると考えられる。

(イ) 項目④「育成を目指す資質・能力を踏まえたICTの意図的・効果的な活用の推進がされているか。」について

7月に最高評価「4」の割合が15%以下で課題としてあげられた，「ICTの活用，推進」については，最高評価の「4」の割合が学校全体では18%となり9%上昇し改善していることが伺える。ただ，各学部の割合は，「4」の割合が，中学部は15%，高等部は14%と，基準値の15%以下に含まれる。また低評価「2」「1」の割合も高等部では11%あり，基準値の10%を上回っていることから，学部によっては依然として課題として残っていることも伺える。

しかし，7月学校評価と比較すると，小学部では最高評価「4」の割合が9%から22%に上昇したことや，中学部では低評価の割合が16%あったものが3%にまで減ったことから，改善が見られていることも伺える。それは，担任全員にタブレット端末が配備されたこと，必要なアプリケーションを購入していただき活用できていること，生成AIの強みや特徴を生かした効果的な授業づくりを行うための研修が実施されたこと，デジタルとアナログのベストミックスという研究テーマのもと校内研修で授業実践を通した活用がなされていることなどが要因と考えられる。

## 2 学校評価（保護者アンケート）

### （1）数値による評価

ア 保護者全体の高評価が95%以上で、取組が充実している項目

- ・ 項目6「学校は、通知表でお子さんの様子や学習の様子を分かりやすく伝えて  
いますか。」
- ・ 項目9「PTAの活動は、活発に行われていますか。」
- ・ 項目13「学校は、高い人権意識（呼名や言葉遣いの対策等）をもってお子さ  
んの指導に当たっていますか。」
- ・ 項目14「学校は、挨拶などの道徳やマナーを教えていますか。」

イ 保護者全体の高評価が85%以下かつ低評価が10%以上で、課題として考えられ  
る項目

- ・ 項目7「学校は、地域の学校の子供たちと交流したり、一緒に勉強したりする  
活動に積極的に取り組んでいますか。」

ウ 保護者全体の高評価が85~90%かつ低評価が5%以上で、今後、課題となる可  
能性がある項目

- ・ 項目10「学校は、現在在籍する学部の卒業後に向けて、発達の段階に合った  
進路学習や進路相談を行っていますか。」
- ・ 項目11「学校は、健康や安全、事故防止にしっかり気を付けていますか。」
- ・ 項目12「学校は、授業や活動に必要な設備や環境が整っていますか。」

### （2）記述による評価

保護者からは、教職員が児童生徒一人ひとりの特性や発達段階に寄り添い、丁寧な支援や指導を行っている点について高い評価が多く寄せられた。子供が学校生活を楽しみ、安心して登校できていることや、連絡帳・週報・面談等を通じたきめ細かな情報共有が信頼につながっていることが伺える。また、進路学習や研修、地域交流、社会性を育む指導についても一定の成果が認められている。

一方で、教職員間での指導や支援の在り方に差があること、安全管理や生徒指導への不安、施設設備（空調・バリアフリー・老朽化）に関する改善要望が多く挙げられた。加えて、学校行事やルール変更、PTA活動等において、事前説明や情報発信が十分でないとの指摘も見られた。

これらを踏まえ、今後は支援の質の均一化と専門性の向上、安心・安全な学習環境の整備、分かりやすくタイムリーな情報共有を一層推進し、保護者と連携しながら、より信頼される学校づくりに努めていく必要がある。

### （3）考察

ア アンケートの回答率

アンケートを「Google フォーム」と紙面で実施した。回答率が72%で、昨年度の71%とほぼ同水準で合った。回答期間中に安心安全メールで保護者へのアンケートへの協力をお願いしたこと、回答期間を1週間延長したことで、回答率が上がったと考える。全14項目中12項目で高評価が90%以上となり、全体として取組は充実していると考えられる。

#### イ 項目7「地域校の子供との交流や共同学習への取組」について

項目7における高評価（「4」「3」）の割合が84%で、他の多くの項目（90%前後～95%以上）と比べてやや低い水準にとどまっている。特に最高評価「4」の割合が32%と、他項目に比べて低く、「3」が52%と多いことから、一定の取組は評価されているが、十分に実感されているとは言い切れない状況が伺える。

「2」が14%、「1」が2%と、他項目より低評価の割合がやや高く、取組の内容や成果が保護者に十分伝わっていない、または実施頻度・機会に差がある可能性が考えられる。

「N」が38件と比較的多い点も特徴で、交流活動そのものや情報発信が、保護者に見えにくい面があることが考えられる。

保護者の記述による意見からは、本校が地域との交流や社会参加を意識した取組を行っていることについて一定の評価が見られる一方で、交流の機会や内容、実施頻度に関して課題を感じている保護者も少なくないことが伺える。

地域の学校との交流については、「今後も継続してほしい」「子供が学校や社会に前向きに参加する経験として大切である」といった肯定的な意見が寄せられており、交流活動が児童生徒の社会性の育成につながっていると受け止められている。

一方で、感染症の影響により交流行事が中止となることが多かったことや、交流の機会そのものが少ない、あるいは実施されていることが十分に保護者へ伝わっていないと感じている意見も見られた。また、学部によって交流の機会に差があると感じている声もあった。

今後は、感染症対策等に配慮しつつ、地域の学校との交流の在り方や時期、方法を工夫するとともに、交流の目的や内容を保護者に分かりやすく伝えていくことが求められると考える。

#### ウ 「N：分からない」の評価の割合が他の項目と比べて大きい項目

項目4「保護者・地域の学校行事等への参加促進」（7%）、項目5「家庭・地域・関係機関との連携体制」（9%）、項目7「交流及び共同学習の推進」（16%）、項目10「発達段階に応じた進路指導・相談」（11%）は、「N：分からない」の評価の割合が7%～16%と他項目と比べて高い。

これらの項目は、外部との連携に関わる内容が多く、日常的な授業や学校生活の様子に比べて、保護者が具体的な取組状況を直接把握しにくいことから、N回答が多くなったものと考えられる。

特に、項目4の行事参加の工夫や、項目5の関係機関との連携は、該当する機会や必要性に限られる場合も多く、保護者が評価しづらい傾向にあるものと思われる。また、項目7および項目10についても、学年や学部、発達段階により取組方法や実施時期が異なるため、「分からない」とする回答につながったのではないかと考える。

今後は、項目4・5・7・10に関する取組について、実施状況や目的、具体的な内容を保護者に分かりやすく伝えるために、学校便りや学年便り、学級PTAやミーティング、ホームページや安心安全メール等を通して、行事や活動への参加方法や配慮事項、家庭・地域・関係機関との連携の在り方、地域交流や進路学習の位置付けについて、計画的かつ継続的な情報発信を行うことが大切であると考えられる。

また、保護者からの意見や質問を積極的に把握し、それを説明や改善につなげることで、学校の取組への理解を一層深めてもらえるよう取り組んでいくことも大切であると考えられる。

### 3 学校評価（児童生徒アンケート）

今回は、全児童生徒 328 人にアンケートを配布し、218 人の児童生徒が回答し、集計した。多くの評価項目で肯定的な回答が高く、学校生活や学習活動に対する満足度の高さが伺える。特に、教師の丁寧な関わりや安心して過ごせる学校環境、人間関係の安定について高い評価が得られている。一方で、項目 8 の進路や将来に関する質問では、中学部、高等部で「分からない」とする回答も一定数見られた。今後は、発達段階に応じた見直しをもてる支援や、地域・関係機関との連携をより一層充実させていくことが求められると考える。

また、項目 1（登校への意欲）、項目 4（教師との関わり）、項目 5（友達関係）において、「1」「2」と回答した児童が一部見られることから、学校生活への安心感や人間関係について、個別の状況に応じた丁寧な関わりが引き続き必要であると考えられる。

### 4 教職員による学校評価、保護者アンケート、児童生徒アンケートを踏まえて

#### （1）安心・安全に関する取組の再点検と可視化

職員アンケートでは、項目⑥⑦⑮から、インシデント対応や人権・安全に関する項目は高い評価となっている一方、保護者アンケートの全体結果の項目 11 や自由記述からは、生徒間トラブルへの不安や見守り体制、指導時の言葉遣いに対する懸念が具体的に示されている。

このことから、職員の「対応している」という認識と、保護者の「安心できている」という実感との間には一部差があるとも考えられる。保護者の気持ちも理解し、安心して学校に通わせることができるように連携して行くことが大切であると考えられる。

また、児童生徒アンケートでは、理由は不明だが学部によっては質問 1 から学校に行くことが楽しみではないと感じていたり、質問 9 から安全な登下校に不安を感じていたりする児童生徒が少数いるが、多くの児童・生徒は学校に楽しく通えている。これらを踏まえ、すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようにすることが求められていると思う。

そこで、校内での安全管理やトラブル対応については、対応手順や考え方を改めて職員間で共通理解を図る。また、インシデント対応や再発防止策について、可能な範囲で保護者にも分かりやすく周知し、学校の取組を「見える化」することや、指導時の言葉遣いや関わり方について、研修等を通して振り返りの機会を設け、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりを進めることが大切であると考えられる。

#### （2）情報発信・説明の充実と「伝わり方」の改善

学校便りや学年便り、保護者案内等による情報発信は行われているものの、保護者からは「知らなかった」「急な変更で戸惑った」「理由の説明が不足している」といった声が見られた。

情報を発信していることと、保護者に十分伝わっていることとの間に課題があると考えられる。

行事や学校運営に関する変更点については、事前に理由や背景を含めて丁寧に説明することを心掛ける。紙媒体に加え、ホームページや安心・安全メールなどのデジタルツールの活用を検討し、必要な情報にアクセスしやすい環境を整える。また、保護者の立場に立ち、「分かりやすさ」や「タイミング」を意識した情報提供を行うようにするなど大切であると考えられる。

(3) 保護者との協働関係の再構築

PTA 活動や行事については、負担感や説明不足を指摘する声がある一方、学校との協力関係を大切にしたいという前向きな意見も多い。

PTA 活動や行事の目的・内容を改めて整理し、無理のない参加形態を検討する。保護者と学校が同じ方向を向いて子供を支える関係を大切にし、対話の機会を継続して設けることが大切であると考えます。

教職員による学校評価と保護者アンケートの結果を踏まえ、今後は、学校として「取り組んでいること」を保護者が実感できる形で示すとともに、教職員間の共通理解を深め、より安全で安心できる教育環境づくりを進めていく必要がある。

5 次年度に向けた改善策等

(1) 次年度に向けた課題と具体的な取組

◎は、重点的に実践する取組

次年度に向けた課題	具体的な取組
自立活動の時間における指導の推進 (項目③)	※自立活動に関する研修 ◎各学級の <u>実践事例紹介</u> →【各学級担任】【自立活動係】 ◎実態把握、課題分析、目標、内容、手立て等設定に関する実践研修→【各学級担任】【自立活動係】 ◎自立活動に関する年間の流れ(実態把握期間の設定、複数での検討機会設定、目標設定から実践、評価までの流れをⅡ期制にすることの検討など)を整備【自立活動係】 ○今年度の取組の継続(実践例の紹介、書籍の紹介等)【自立活動係】
ICTの意図的・効果的な活用 (項目④)	※テーマ研修の実施 ◎デジタルとアナログのベストミックス <u>授業実践(各学年一授業)</u> 【研修係】 ◎ICTの活用や使用目的、成果が分かるシートの作成→発表(公開)【研修係】 ・職員研修(先進校の実践事例の紹介) ・ICTに関する教材の保存と活用 ・環境の整備(アプリ・プリンター等)
業務の適正化・効率化・意識化に基づく教材研究の時間の確保 (項目⑦)	◎会議や研修、行事の見直し(時間の確保)についての提案【教務】 ◎校務分掌の役割と適正人数の整理(業務の偏りを軽減する配置の検討)【管理職】 ◎職員会議での一行事一改善の提案【関係する係】 ◎連絡・集約業務のペーパーレス化(Google クラウド、Google フォームの活用) ・文書作成・資料整理など校務の補助としての活用(生成AI) ◎教材の共有化、前年度資料の整理・活用(業務の効率化)【教材教具・関係する係】

- ・ 項目③は、12月時点においても明確な課題としてあげられる項目である。
- ・ 項目④は、学校全体として改善が見られる一方で、学部による課題が残る項目である。
- ・ 項目⑦は、12月には学校としては課題としてあげられない水準まで改善が見られた項目であるが、職員の関心も高く、意見が多い項目である。

(2) 指導・支援における共通理解事項

- ・ 項目③や項目④の改善にもつなげるために、特別な取組をする前に、日々の1単位時間の授業の質的向上を図ることを全職員意識する。
- ・ 項目⑰の課題に対しては、職員の記述による意見から、職員間におけるコミュニケーションや思いやりを基盤とし、協力しながら情報共有・情報交換を行うことが、業務の効率化や負担軽減につながる事が伺える。職員同士の連携や同僚性を重視して、円滑な業務を進めて行く。
- ・ 保護者アンケートから、事前説明や情報発信が十分でないとの指摘をいただいた。保護者の些細な声にも真摯に向き合い、主任や主事、管理職に相談し、分かりやすくタイムリーな情報共有を推進し、保護者との連携をよりいっそう深めて行く。